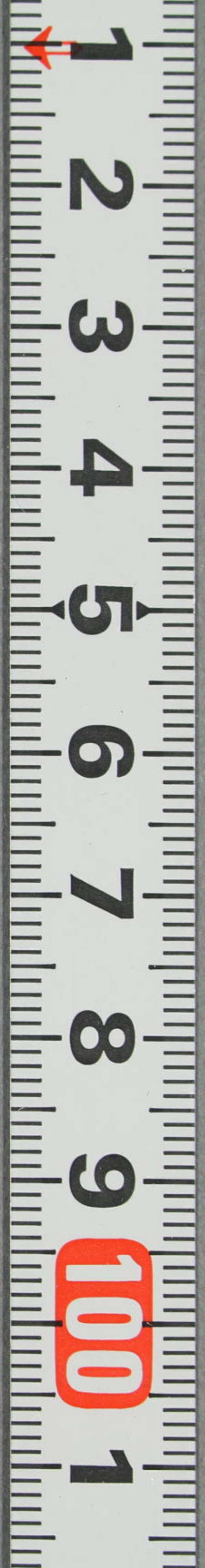
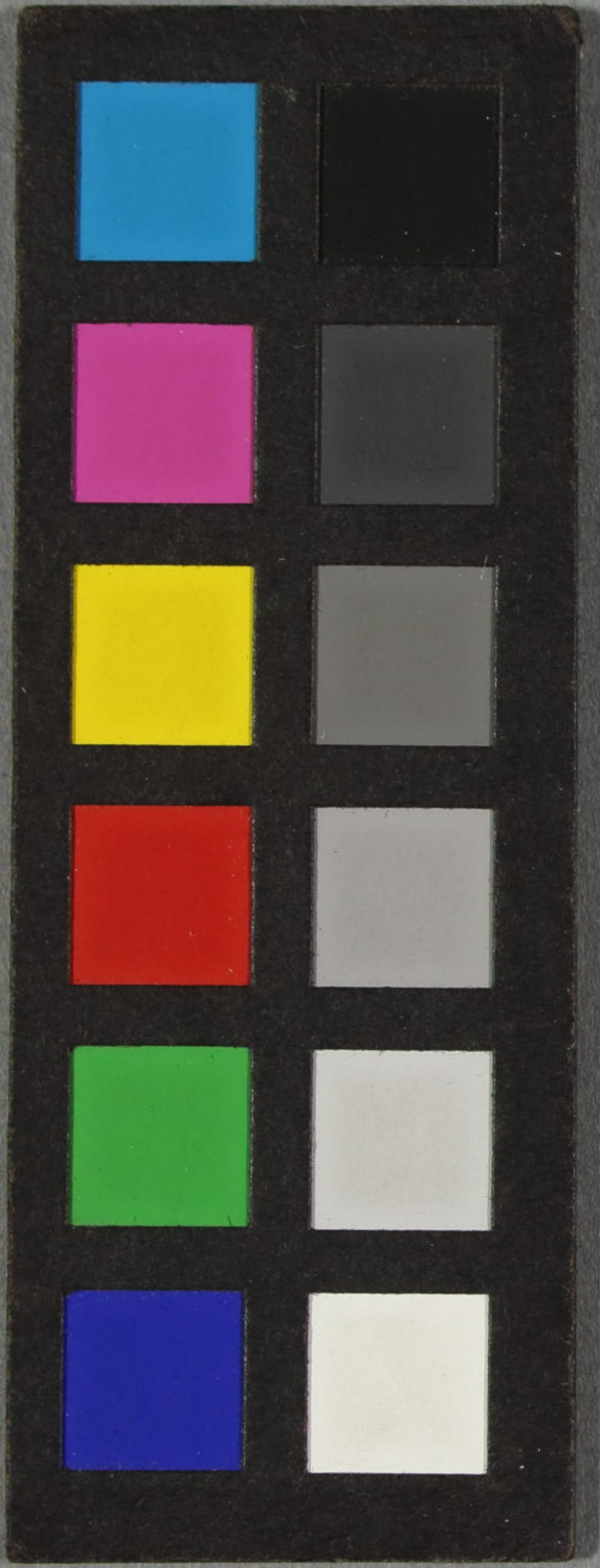




Red square seal impression with stylized characters, likely a collector's or library's mark.



みせく百首序



世人の身にかねるるあしひのこころ
たゆまぬいよのあはれをよもりそ
と葉にたるとて人々のよきた
しむるあはれと折よぬ建てるい
あつめらるるかたをうしうかん
いしはくす我文庫おひめをさてく獨
をこしはくもがめたるあはれを撮本ふ
えらるるいし画の色とりとてあ
さやうあつ折奉りたるいしを
あつれ調度りてく女ごころの
いしはくあはれと折よぬ

文政十ま

後の山陽堂

きんぐ月

中一友述 若

安永頃關東狂歌中興家元系圖

● 四方赤良 寐惚 蜀山人

● 萬象亭 二代目 風來山人

狂歌堂

方龜亭

滄洲樓

森羅亭

六樹園

山陽堂

桑楊菴

滝水樓

● 朱樂菅江 淮南堂

● 一風齋隣海

便々館 下略

櫻川慈悲成

● 唐衣橘洲 醉竹園

三藏樓

● 元本網 落栗菴

妻智惠内子

板屋常恒

静廬

● 手柄岡持 龜山人

芍藥亭

後司馬の屋嘉門
蜀山人ニ狂詩ヲ學
フ東哥法眼



豊
廣
五

市川白猿

和田志を十八助なるとも傳ふ人あり常世生つる丹つる
具連堂 四

あまの思ひまゝにわたりていづれもくさくめしきあひらよひ路
与志門

筑波根の響よりうたはゆのひ雪の移るまじふなりん
桜田舎片隅

こもむくのしれきまじふまじふあはれあはれあはれあはれ
二代目 山陽堂

君うあまの日本れ傳はよまの葉の巻くしれも退屈
荒金土丸

あまの又ゆりんくまきりれいなるものしをさるる存る
玉蟾舎

千子あつゆの深き新田山お井のあふりゆり
溜池隅成

すゝのひのなまよりのほのふまのあはれいづれもあはれ
司馬の屋

雛飯く籠る草のあかんまゆりまゆりあゆり
篤垣真葛

こひぬれくふらまじふ物あまのあはれまじふあはれ
このと

菊の屋真惠美

今えといひも家の長をたもたむも掛りてこそよき事

吉田真似久

せうけいふみの月れはまの志りのれをせうけいふみのあまのり

星月菴真近

月とれはちまひ一然も雲と舞うて枝をけりまひむらさき

芝浦綱主

この旅はまよふたあぬあひこ花のゆきはまよとめらふ

駿府直古

名ふ一まよを坂山のまはうとく今まよとくまようとくぬ

杜の屋茂道

とく山家のゆ花はなく今一ふひのみもまよとくまよ

依田川常

船の海くまやゆけいのこた糸まきく流くくめり乃益

少く道頼

やま田まらなを流しと海まらなを今も何もいぬとまらハ

金粉蔘栄

心あまふまふ登の花よあふあを中とつせまきくのまを孫

糸の屋打益

まら旅のつまふあれく山なるまは猪まらうまき物あは



皇
廣
五

鮮圃猿人

はらうは月うとくぬ八ねくよし系のこと少きるかき

四方赤良

質をふりけし地赤の中千はたきぬおぬお美きり

子孫長久

ひさこの光る深氏のかかきとまづむぢくぬちよりん

司馬山人

子枕も若根まぬ中よき妙の松ハ首のむつましは友

銀花園幹長

うめいさ横もあしひあうつあは雪ふみし義の若き白ひう

森羅亭

夏のおくまき青なうしれ曉の明厚をゆせりしうじん

揚果亭栗毬

あつ流の柳の枝も氷きさつてわさし海むとこそとくれ

全

笑ひてまきるいん心かおあう令はきしくもなまき系

森蔭亭

木うちまのふ世の志は系思ふまきれも冬後のむしりひそ

萩葉堂冷風

思ふれまきりやと亂きまきりぬし人の目影をみり

司馬廻屋

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

白銀伊左子

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

臈菴春鏡

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

交原軒風

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

御内陣是頼

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

葛の屋畦成

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

濱辺黒人

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

柱最秋

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに

とー門

あはれに我々の心もあはれに人さへもあはれに



豊廣画

酒上是好

酒上は好む人少し
茶山花老人

酒上は好む人少し
桜川甚孝

酒上は好む人少し
芝嘉門

西國のゆくまじり
錢屋金時

西國の香は長く
常の屋集丸

舟なるふりかき
万々齋真長

舟なるふりかき
濱邊潮時

大いふく
山陽堂

有る山陽堂
磯の屋瑛沙

有る山陽堂
土用の内も

廣尾原住

いかにかたし帝のき妃様今多きと馬より自ひぬるが
紀 輕 人

おとこあてきりのやき成りさるる舌やぬるん甲の打ぬ
魚 籃 登 鯉

いま只さひ終るんといひあうくつてふ又ぬとゆらぬ
混 元 道 人

綱尾様所のまきとつた拂ひあられとつた勢田の長松
志 賀 の 屋 宮 子

いふみひるぬ袖とく僕りつたまきとつたまきのまきとつた
鴻の空好住

結とふふらうまかもたきとつた住居かふるゆり節まきとつた
芝の門美溪

とつたあめのまかむまきとつた木枕のいふとつたふあつたまき
松丘庵芝守

心ふあゝぬほきとつたまきとつたまきとつたまきとつた
福 史 園

あしとつた月まよちぬ保花のぬまよはまきとつたまきとつた
司 馬 嘉 門

寂——まきとつたまきとつた我宿とつた身とつた秋のまきとつた

豊
廣
五





古意端練

日影のこころ方と後ねのこころのまどとあはれ

徒然法師

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

水戸空風

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

山里村路

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

司馬の屋

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

橋立躬文

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

福島廣海

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

茶山花老人

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

筆 佐屋子

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ

栗柯亭木端

あつらひのこころ今いたまき物とさだのねとふあはれ



盃 有 義

きりくみなりや旅者の肩さるる裾をくんといふをすれ

山 陽 堂

我神の塔をいふ浦の蟹たたくかく隠すをあもて我はる

竹 芝 園

よの中をいひ楫とれみして宗少やの隠すをのせりり

芝 浦 屋 涼 波

ふゆりのいせの神風秋あひく古市をく衣うらなう

福 草 満 葉

稲妻はうき世の民を驚かすをきりり山の雲をうらなう

玉 芝 庵 濱 義

花をいふ花の中は花は画のうゆく隠すをうらなう

花 林 園 香 江

はるかとまらるる雲をうらなうはるかに昇るをうらなう

四 方 真 顔

風をいふ小川花をいふ若き大遊をいふ知ふをうらなう

司 馬 嘉 門

花をいふ花をいふ花をいふ花をいふ花をいふ花をいふ

路 の 屋 是 益

花をいふ花をいふ花をいふ花をいふ花をいふ花をいふ

豊後



